

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：32686
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2017～2022
 課題番号：17K02046
 研究課題名（和文）中国・中国人認識に関する日本・韓国・台湾の比較研究：メディア・社会言説の分析

研究課題名（英文）A Comparative Study of Chinese and Chinese Perceptions in Japan, Korea, and Taiwan: An Analysis of Media and Social Discourse

研究代表者
 黄 盛彬 (Hwang, Seongbin)

立教大学・社会学部・教授

研究者番号：50308095

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、中国の浮上や覇権の主張が著しく強まるなか、日本と韓国、そして台湾のそれぞれのメディアや世論空間がどのように反応しているのかに注目し、まず、文献研究を通じて、対象国・地域における周辺国（民）認識・イメージについての調査結果や研究を収集し、時系列な傾向の分析に加え、多者間における他者認識の方程式のような関係の特徴を理論化する作業を行なった。次に、研究期間中の主要メディアおよびインターネットにおける言説を分析し、メディア分析を実施した。また、調査対象の国・地域における各種の世論調査のデータを収集し、時系列かつ体系的な分析を行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、歴史学における先行研究から学びつつ、現代における言説あるいは表象の状況、そしてメディア研究におけるオーディエンス研究の視座を加え世論における解読状況（＝認識）にも注目し、いわば「イメージ、表象、認識」のプロセスを総合的に説明しようと試みた。社会的意義は、「ナショナリズムと他者認識の関係性」を解明することによって、近年における、それぞれの国家・地域におけるナショナリズムの高揚と、それに強い背景及び誘発要因となっている他者認識のあり方の解明を通じて、この地域における平和的な関係構築への社会的かつ政策的な提言を行うことにも、本研究の特色及び意義を見出すことができる。

研究成果の概要（英文）：This study focused on how the media and public discourses in Japan, South Korea, and Taiwan have reacted to the emergence of China and its growing assertion of hegemony in the region. In addition to the analysis of time-series trends, it also tried to theorize the characteristics of the equation-like relationships in the perception of others among multiple parties. Next, a media analysis was conducted by analyzing the discourse in the major media and on the Internet during the study period. It also collected data from various public opinion polls in the countries and regions studied and conducted a time-series and systematic analysis.

研究分野：メディア研究、文化研究

キーワード：中国認識 中国人認識 ナショナル・アイデンティティ 他者認識 ナショナリズム 台湾 日本 韓国

1. 研究開始当初の背景

日本(または韓国や台湾)における中国認識は、周辺各国や米国または西洋といった重要他者への認識との関連において把握されれば、それぞれの複数の他者認識が相互にどのような関係性を有しながら、成立し、変容していったのかなどの問題が、より解明されるのではないかと、という問題提起を行なった。本研究では、他国(民)への認識が、両者関係のみに左右されず、周辺の様々な他者との関係により影響されることや、当事者及び重要な他者を含む地域の情勢等(コンテクスト)についての認識、つまり地政学的世界認識にも影響されることを考慮しなければならないと考え、それによって、他者認識の複雑さや両義性、その表象における多様な局面を総合的に理解し、さらに将来への予測も可能にする理論の構築が可能であると考えた。また、本研究では、他者認識を近代国家としてのナショナル・アイデンティティとの関連のなかで、把握しようとした。「アイデンティティは常に構造化された表象なのであり、ポジ(自己)とネガ(他者)によってのみ表すことのできるものである」と捉え、他国や他国民に対する認識、イメージとは、他者との対比において描かれ、認識される自画像 = アイデンティティと対をなすものである、という視点から研究に取り組んだ。先行研究としては、Andre Schmid の *Korea between Empires* (Columbia University Press, 2002) があり、韓国における他者認識の状況を描き出している。Schmid によれば、中国と日本の「二つの帝国」に挟まれ、結局は、日本に併合される運命となり、そして1945年の独立後は、米国と旧ソ連を頂点とする冷戦体制の前線として位置づけられ、日本との関係では、植民地の経験のトラウマを抱えながらも、再び西側の進んでいる他者として学ぶ対象とされながら、二律背反の曖昧な認識を持ち続けている。また、日本近代における他者認識・表象について分析した Stephan Tanaka の *Japan's Orient* (University of California Press, 1993) では、明治啓蒙期の文明史が抱え込んだ、西欧中心主義的な進歩概念の中にどのように非西欧圏に属する日本を位置づけるかという難問への行き詰まりが、「東洋」概念の構築を通して、西欧諸国に対する文化相対主義とアジア諸国に対する文明化の理論を両立させる言説的構成が誕生し、消されたと論じられている。つまり、アジア主義/脱亜の二項対立図式ではなく、両者が共振するような言説空間の構造を問題としたのである。また、日本においても、同様の問題関心からの多くの研究の蓄積がある。代表的な研究として、姜尚中『オリエンタリズムの彼方へ 近代文化批判』岩波書店；子安宣邦『「アジア」はどう語られてきたか 近代日本のオリエンタリズム』藤原書店、などを挙げられる。しかし、こうした研究においても、東アジアにおける重要な他者を、「アジア」として包括的に捉えるあまり、複数の他者認識の間の複雑な関係性へ考察が加えられる必要があり、近年の国際情勢の変化を踏まえての最新の事例分析が必要であると考え。従って、本研究では、西欧 - 日本 - アジアの三者関係の文脈における「他者認識」の分析視点から多くを学びつつ、東アジア地域をもう一つの認識地政学的な単位として把握し、その中で、日本、韓国、台湾から

の中国への認識を主題化することで、東アジア地域における今日的な問題、すなわち中国の浮上とそれに対する周辺各国の対応がもたらす地域の不安定性という問題への構造的な説明を目指した。ここで、中国の浮上とは、政治・経済における覇権主義、領土問題をめぐる葛藤のみならず、たとえば、中国人観光客の急増に伴うさまざまな社会現象などがあり、それへの周辺各国の対応とは、政治・経済面の次元のみならず、対中国意識から刺激されるナショナリズムの高騰や排外主義の広がりなどがあつた。

2. 研究の目的

日本、韓国、台湾における中国・中国人認識の比較研究として、それぞれの国・地域における地政学的空間（世界）認識、他の周辺国への認識（イメージ・表象）との相関・影響関係及びナショナル・アイデンティティの構築との関連で、中国認識の形成・変容、そしてその影響のあり方を解明することを目的としていた。そのため、メディア・社会言説を分析し、またアンケート調査、質的インタビュー調査を通して、中国・中国人に関する認識の形成・浸透のメカニズムを明らかにし、共通点や差異を探る研究作業に取り組んできた。

3. 研究の方法

本研究は、以下の三つのパートで構成される。第一に、先行研究の整理及び分析、第二に、メディア言説、社会言説の分析、そして第三にアンケート調査、質的インタビュー調査である。

まず、関連の先行研究の整理及び分析のパートでは、各種の世論調査結果などを収集し、時系列及び相関・影響関係を解明する作業を集中的に行った。先行研究の整理及び分析については、調査対象の国・地域における学術論文データベースを利用し、関連の研究論文の収集を行ってきた。そのほか、各種メディア、世論調査機関、政府関連機関による中国・中国人認識に関わる調査の結果を体系的に収集した。これらの学術論文及び雑誌論文の分析を通して、学問共同体あるいは解釈共同体における中国・中国人言説の把握を試み、また各種世論調査の結果の分析からは、世論の時系列的かつ総合的な把握を試みてきた。また、研究の過程で、研究のテーマ、内容、キーワードなどについてのメタ分析を加えることを研究作業の新たな軸とすることになった。各種メディア、世論調査機関、政府関連機関による中国・中国人認識に関わる調査についても、同様にメタ分析の手法を用いて、さらに分析を行なった。

次に、メディア言説の分析については、主に新聞メディアを中心に中国・中国人に関わる記事や論評を収集し、分析のためのデータセットを構築した。調査対象の国・地域が、共通に抱えている問題・懸案、そして主要な政治・社会的なイシュー、そしてメディアのイベントなどに注目し、データ収集及び分析を行った。「中国・中国人に関わる記事や論評を収集し、分析のためのデータセットを構築した。調査対象の国・地域が、共通に抱えている問題・懸案、そして主要な政治・社会的なイシュー、そしてメディアのイベントなどに注目し、デ

ータ収集及び分析を行った。主要新聞の記事データベースからのキーワード検索を用いる分析データの収集を行い、様々な「データセット」を作成し、質的分析のソフトウェア(NVivo)を用いる分析に加え、計量的言語分析も導入して、その分析のためのデータセットも構築した。計量的な言語分析の手法を用いて、研究テーマに関する量的または頻度の把握を試み、それを質的な分析における焦点化およびキー概念の抽出にも役立つことが狙いであった。

4. 研究成果

具体的な事例研究としては、中国の習近平体制のガバナンスに関するメディア報道、中国人観光客に関するメディア言説、そして朝鮮半島情勢に関わる中国の役割、平昌オリンピック期間中のメディア報道、「新型コロナウイルス」のパンデミックの発生から拡散のケース、米中対立などの事例に関して、データ収集、データセットの作成、分析作業を行なった。とりわけ、パンデミックの発生と、その後の日中対立の顕在化は、本研究における問題意識と深く関わる事態であったため、集中的に資料収集、分析を行うこととなった。具体的な個別事例として、韓国における大統領選挙期間中において、中国認識または「反中世論」が焦点になったことを受けて、これまで同様の手法を用いて、分析データ収集に着手し、分析・考察を行った。また、研究の全期間を通して行ってきた映画、テレビドラマなどのポピュラーカルチャーの領域における「中国・中国人認識」に関する表象・言説の分析作業も引き続き行なった。

アンケート及び質的インタビュー調査に関しては、また、アンケート調査及び質的な深層インタビューを実施する計画であったが、パンデミックの影響により当初の計画を修正することとなった。研究期間中に現地調査を計画通り実施できず、オンラインツールを用いたインタビュー調査を行なった。

以上のように、本研究では、中国の浮上や覇権の主張が著しく強まるなか、日本と韓国、そして台湾のそれぞれのメディアや世論空間がどのように反応しているのかに注目し、まず、文献研究を通じて、対象国・地域における周辺国(民)認識・イメージについての調査結果や研究を収集し、時系列な傾向の分析に加え、多者間における他者認識の方程式のような関係の特徴を理論化する作業を行なった。次に、研究期間中の主要メディアおよびインターネットにおける言説を分析し、メディア分析を実施した。また、調査対象の国・地域における各種の世論調査のデータを収集し、時系列かつ体系的な分析を行なった。研究成果の発表は、国内および国際学会での発表、学術論文、単行本としての発表を順次行なっていく予定である。

本研究では、歴史学における先行研究から学びつつ、現代における言説あるいは表象の状況、そしてメディア研究におけるオーディエンス研究の視座を加え世論における解読状況(=認識)にも注目し、いわば<イメージ、表象、認識>のプロセスを総合的に説明しようと試みた。

社会的意義は、「ナショナリズムと他者認識の関係性」を解明することによって、近年における、それぞれの国家・地域におけるナショナリズムの高揚と、それに強い背景及び誘発要因となっている他者認識のあり方の解明を通じて、この地域における平和的な関係構築への社会的かつ政策的な提言を行うことにも、本研究の特色及び意義を見出すことができる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 黄盛彬
2. 発表標題 日本の世論空間における『一帯一路』
3. 学会等名 2019豆満江フォーラム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hwang, Seongbin
2. 発表標題 Representation of Gaming Technology Home and Abroad: A Case Study of the Pokemon's Country, Japan
3. 学会等名 International Association for Media and Communication Research（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 HWANG, Seongbin
2. 発表標題 How the Internet and social media have changed the lifeworld of news media and public agenda? : Japanese Case
3. 学会等名 What is Life? Organized by The University of Oregon（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 HWANG, Seongbin
2. 発表標題 Representation of Apology: A comparative Study of Korea and Japan
3. 学会等名 International Workshop Public Image and Narrative-Making in Japan-Korea Relations at Hebrew University（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 HWANG, Seongbin
2. 発表標題 The Gaze upon Chinese Tourists: a Comparative Study of Japanese and South Korean Media's Coverage
3. 学会等名 International Convention of Asia Scholars(ICAS) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 HWANG, Seongbin
2. 発表標題 Media Coverage of Hate Speech Rallies in Japan
3. 学会等名 Beyond Hate & Fear: How Do Asia and Europe Deal with Hate Speech? Organized by Seoul National University Asia Center(SNUAC), (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 HWANG, Seongbin
2. 発表標題 While Laughing at the Demon: the Structure and Mechanism of North Korea Coverage/Discourse in Japan
3. 学会等名 Media's Demonizing of North Korea Organized by Seoul National University Asia Center (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 金成ミン、周倩、岡本亮輔	4. 発行年 2017年
2. 出版社 亜紀書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 東アジア観光学	

1. 著者名 小寺敦之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 200
3. 書名 世界のメディア	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------